

【小学校の部】

○全体について

- ・戦争、いじめ、LGBTなど内容が多岐にわたっていて、生活の中のいろいろなところで人権について考えていることが感じられる。
- ・生活の中や自分の体験から思いを綴り、自分事としてとらえている作品が多かった。
- ・家族との関わりや出来事などから、自分が家族に支えられていることを実感し表現している作品があった。
- ・周りに流されることなく自分なりに考え、自分で行動することの大切さを訴える作品があった。
- ・いじめに関する作品では学校生活の中で大きな影響があるので喫緊の課題だという認識の作品があり良いと感じた反面、いじめられる側の原因について言及しているものが見られ気になった。
- ・文章構成や、内容などよく指導がなされていた反面、使用されている用語など不適切なものが散見された。
- ・読書活動の中からの作品が見られ、多様な場面で人権について考えることが多いと感じ嬉しかったが、感想で終わっている作品があり残念だった。
- ・どの作品も文章量としては適切であった。

○最優秀作品について

生活の中での体験をもとにしており、自分と向き合って深く考えていることが伝わってくる作品である。自分の想いを家族に打ち明けたり、いっしょに考えたりしながらこれから先どのように自分はなりたいか、行動したいかが伝わってきて、作者とともに前向きになることができる作品である。

【中学校・高等学校の部】

○全体について

- ・人権とは何かを考えることで、日常を振り返る作品が見られ、好感がもてた。そして、いろいろな場面で人権について学び、気づいている作品もあった。
- ・表現豊かな作品、自らの体験をひもといている作品は、読んでいてよく響いてきた。
- ・各校の総合的な学習の時間での体験が、人権について考えるきっかけになっている様子うかがえた。
- ・高校生の作品は、いずれも力作であった。鋭い視点での切り込みもあれば、日常を丁寧に追ったものもあり、読み応えがあった。

- ・ 高校生は、原稿用紙5枚をよく書き切っていた。分量が書き込めることで、考えが深まっている様子があった。枚数が書けることは大切なことであると改めて感じられた。
- ・ ウィズコロナの視点から書かれた作品があり、現代の人権課題を子どもたちが瑞々しい感性で乗り越えようとしている姿が印象的であった。

○最優秀作品について

(中学生の部)

アイヌ民族の方に関する人権課題に小学校の時に出会い、中学生になって再びこの人権課題を探究しています。「もっと知るべき、気づくべき」との思いからの行動や、様々な人権課題をひとくくりにせずに、多様な方の立場に立って考えようとする姿勢は、人権意識のあり方を伝えてくれています。

(高校生の部)

現代社会の人権課題に敏感で男女間の差別について主体的に考えた作品である。日常の何気ない言動に潜む理不尽さや歪みを指摘するだけでなく、その状況に立ち向かう意志が力強く語られている。未来の世代に多様な生き方を示すロールモデルになりたいと語る著者を応援したい。